

平成18年度 国立・国定公園海域保全方策検討調査の概要

環境省自然環境局
国立公園課

1. 背景

国立・国定公園の面積の4割弱が海域であるが、海域の保護及び利用に関する基本的な考え方については十分議論がされてこなかった。

海洋・沿岸域政策大綱の策定や海洋基本法制定準備が進む中で、国立・国定公園を中心とした自然環境の保全について、現状のレビューと制度等の見直しの検討が必要となってきた。

2. 目的

国立・国定公園内を中心として、海域の景観、生物多様性及び利用について、現状と課題の整理を行う。

海域保全に関する基本的考え方、環境省が取るべき施策等について考え方を整理する。

3. 調査の概要

検討課題の設定

関連情報の収集・整理

情報源情報の整理と課題抽出
沿岸・海岸におけるギャップ分析

海中公園地区の捕獲規制種分析
国際的な議論の収集・整理 等

懇談会（専門家構成を変えて2回）

第1回 2月1日 13:30～ テーマ：海域の景観保全、利用について

第2回 3月上旬 目途 テーマ：海域の生物多様性保全等について

ヒアリングの実施

ケーススタディに係る専門家等や個別の課題の専門家等から聞き取り予定

モデル事例の分析を通じた課題の検討（6地域）

問題の現状及び圧迫等の要因把握 関係者の自主的取組状況の把握
課題の抽出

モデル事例は竜串・柏島・知床・慶良間・表浜海岸・瀬戸内海の干潟が対象

4. 検討課題

(1) 海域の景観

- ・公園として守るべき海の風景・景観の整理
- ・海の景観の現状と課題

(2) 海域の生物多様性・生態系

- ・海域の生物多様性・生態系保全に関する現状と課題

(3) 海域の公園利用

- ・海の公園利用の対象範囲
- ・海の公園利用の現状と課題
- ・利用による影響・異種利用間の軋轢の現状と課題

(4) 制度論

- ・国立・国定公園における海域保全の目的・役割
- ・国立・国定公園における海域保全の制度のあり方

5. 懇談会について

(1) 目的

国立・国定公園の海域を含む浅海域の景観・生物多様性保全に関する現状と課題に関する意見交換を行うもの。なお、本懇談会は、方針について何らかの結論を出すものではない。

(2) 委員（対象委員以外も都合がつけば各回に出席予定）

分野	委員	第1回	第2回
海域景観	西田 正憲（奈良県立大学教授）		
海域利用	宇井 晋介（串本海中公園セ副支配人）		
自然公園制度	加藤 峰夫（横浜国立大学教授）		
漁業制度	牧野 光琢（中水研研究員）		
砂浜生態系	亀崎 直樹（ウミガメ協議会会長）		
藻場・岩礁帯の生態系	仲岡 雅裕（千葉大学助教授）		
干潟の生態系	清野 聡子（東京大学大学院助手）		
サンゴ礁生態系	藤原 秀一（(株)いであ）		
渚の生態系	加藤 真（京都大学大学院教授）		
自然保護・国際動向	吉田 正人（江戸川大学教授）		
水産全般	多紀 保彦（自然研理事長）		
自然保護行政	鹿野 久男（国立公園協会理事長）		

.. 各回の主要委員。その他の委員も都合がつけば出席。

.. 話題提供をお願いする委員。

座長は多紀委員をお願いする予定。